

教科	芸術	科目	美術 I	単位数	2 単位	学年	1 学年
使用教科書		日本文教出版『高校生の美術 1』					
副教材等		なし					

1 グラデュエーション・ポリシー及びカリキュラム・ポリシー

グラデュエーション・ポリシー	<p>～卒業までにこのような資質・能力を育成します～</p> <p>①確かな学力と豊かな人間性を身に付け、様々な場面に対応できる知識・技能を有し、何事にも主体的・創造的に取り組む力を育てます。</p> <p>②国際感覚や多様性を理解する姿勢を身に付け、広い視野を持ち、他者と協働し社会に貢献する態度を育てます。</p> <p>③よりよい社会を創造するリーダーとなるにふさわしい精神と、高い目標の実現のために粘り強く努力し続ける姿勢を育てます。</p>
カリキュラム・ポリシー	<p>～上記の資質・能力を育成するため、このような教育活動を行います～</p> <p>①生徒の資質能力の最大限の伸長のために、適切な科目の配置やICTの活用などに取り組み、確かな学力に基づいた思考・判断・表現する力を育成します。</p> <p>②生徒の個性を尊重した進路実現のために、地域の人的資源を活用して様々な体験をする機会を設け、キャリア教育の充実を図ります。</p> <p>③生徒の視野を広げ、多様な価値観を身に付けさせるために、様々な探究活動や体験活動を通して、教科横断的な思考と協働活動の中で合意形成する力を育てます。</p>

2 学習目標

<p>美術の幅広い創造活動を通して、造形的な見方・考え方を働かせ、美的体験を重ね、生活や社会の中の美術や美術文化と幅広く関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>(1) 対象や事象を捉える造形的な視点について理解を深めるとともに、意図に応じて表現方法を創意工夫し、創造的に表すことができるようにする。</p> <p>(2) 造形的なよさや美しさ、表現の意図と創意工夫、美術の働きなどについて考え、主題を生成し創造的に発想し構想を練ったり、価値意識をもって美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めたりすることができるようにする。</p> <p>(3) 主体的に美術の幅広い創造活動に取り組み、生涯にわたり美術を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、美術文化に親しみ、心豊かな生活や社会を創造していく態度を養う。</p>

3 指導の重点

<p>① 本校の位置する美しい自然や地域の文化財、文化施設を活用しながら美術の幅広い創作活動を行う。</p> <p>② 絵画、彫刻、デザイン、建築、映像メディア表現を学習する。また、美術史を学び、理解を深める。</p> <p>③ 対象や事象を捉える造形的な視点について理解を深めるとともに、創造的に表すことを目指す。</p> <p>④ 造形的な良さや美しさ、表現の意図と創意工夫、美術の働きなどについて考え、美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めることを目指す。</p> <p>⑤ 主体的に美術の幅広い創造活動に取り組み、心豊かな生活や社会を創造していく態度を養う。</p>
--

4 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
対象や事象を捉える造形的な視点について理解を深めている。 創造的な美術の表現をするために必要な技能を身につけ、意図に応じて表現方法を創意工夫、表している。	造形的な良さや美しさ、表現の意図と創造的な工夫、美術の働きなどについて考えるとともに、主題を生成し発想や構想を練ったり、美術文化に対する見方や感じ方を深めたりしている。	美術や美術文化と豊かに関り主体的に表現及び鑑賞の創造活動に取り組もうとしている。

5 評価方法

評価は次の観点から行います。			
	知識・技能 a	思考・判断・表現 b	主体的に学習に取り組む態度 c
評価方法	課題やその制作過程を通じ、上記の観点を踏まえ、表現方法を創意工夫し、主題を追求して創造的に表しているか、などから、評価します。	課題やその制作過程を通じ、上記の観点を踏まえ、作品を通して心情や意図と創造的な表現の工夫などについて考え、見方や感じ方を深めているか、などから、評価します。	課題やその制作過程を通じ、上記の観点を踏まえ、見方や感じ方を深め、表現や鑑賞の創造活動に主体的に取り組もうとしているか、課題の内容、提出状況、授業の取り組みなどから、総合的に評価します。
	内容のまとめりごとに、各観点 「A：十分満足できる」、「B：おおむね満足できる」、「C：努力を要する」 で評価します。		

6 学習計画

月	時数	領域分野	題 材	学習内容	評価の観点	評価の方法
4	2	鑑 賞	オリエンテーション 美術とは何か	年間学習計画 描く つくる 見る活動を通して自分の心の中をみつめる	b.c	取り組み
				5		
5	4	鑑 賞	視点と現わし方 作家探究	いろいろな視点からの表現を鑑賞して、その意図や工夫を知りイメージにつなげる方法を探る。	a.c	レポート発表
				6		
7	2	鑑 賞	日本美術の特質	様々な方法がある日本美術の世界を鑑賞し日本独自の美意識、自然観を認識する	a.c	レポート
9	8	デザイン	デザインの世界	飾る、伝える、使う、環境など生活に密着した幅広いデザインの世界を知りそれぞれの役割を理解する	a.b.c	取り組み 作品の内容
		鑑 賞				

10			伝達する形と色	言葉によるイメージを形と色、構図で表現する		
			文字の工夫	よく使われる書体の基本を学習し自分の意図に沿って文字をデザインする		
11	10	デザイン	メッセージを伝える	伝える情報や使われる場面を基に見やすさ、美しさ、構成の効果を考え制作して発表する		
12	2	鑑賞	作家探究	アントニ・ガウディ	a.c	レポート発表
	12	デザイン	暮らしの中の使うデザイン	伝統素材を使ってその特質を生かし用途に合った、美しさを持つ形につくる 道具の種類を使い分け、根気強く仕上げる	a.b.c	取り組み 作品完成度
	3	2	鑑賞	オリエンテーション これからの私と美術	生活と美術の関わりに目を向け、これからの生活の中でどの様に生かすことができるのかを考える	c

計64時間（55分授業）

7 課題・提出物等

- ・課題作品を提出する。
- ・授業内での課題の取り組みを記録する。
- ・鑑賞の記録を提出する。

8 学習アドバイス

美術を通して取り組む表現と鑑賞の創造活動は、人間らしい感動や生き方を認識していくことにつながります。寛容と理解力を持って、広く芸術・文化を学び、優れた感性を身につけていくことが大切です。(担当：牛木 志津子)